

全国水平社（社会科）

対象：小学校6年生以上

1 主眼

国際的地位が向上してきた日本で、身分制度が改められてからも差別され、苦しめられてきた人々が全国水平社を創設した理由を考える場面で、山田少年の訴えを考えたり、水平社宣言を読んだりすることを通して、差別されていた人々が差別をなくすために立ち上がった事がわかる。

2 本時の位置 8時間扱いの第6時

前時・・・第一次大戦後の民主主義への意識の高まりによって、米騒動等の民衆運動や労働運動、農民運動が起こり、その高まりの中で差別されてきた人々が「全国水平社」が創立したことを理解した。

3 人権教育の視点

○差別されていた人々が、自らの力で差別をなくそうと水平社を結成したことを理解する（知識的側面）

○山田少年や水平社をつくろうとした人たちの心情を想像する。（技能的側面）

4 指導上の留意点

○推測に終わらないように、具体的な資料の記述から考えることができるようにする。

5 展開

	学習展開	予想される児童の反応	教師の指導・助言	時	備考
導入	1 差別されてきた人々が全国水平社をつくった理由を考える。	<p>身分制度が改められて、制度上は差別がなくなったのに、なぜ差別されてきた人々は、全国水平社をつくったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々の様子や思いが分かると考えられそうだ。 根拠となる資料が必要だ。 		5	
展開	2 資料①「学校での差別」から思ったこと、考えたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 学校でもこんなにひどい差別をされ、このままでは差別はなくなると感じたから、差別されていた人たちは立ち上がり、全国水平社をつくったと思う。 抗議の気持ちを行動で示したから。 <p>全国水平社を作った人々はどのような思いや願いをもっていたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 根強く残る差別を表す資料を提示し、児童の予想を補足する。 	35	資料①「学校での差別」
	3 資料②「山田少年の訴え」からどのような思いや願いをもって全国水平社を作ったのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 会場の人たちも山田少年と同じような体験があるんだな。 今までじっと我慢してきた人々が、ついに差別をなくそうとして立ち上がったんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な政策が示されず社会でも差別がなくなる状況の中で、被差別部落の人々の思いや願いに寄せて考えることができるようにする。 		資料②「山田少年の訴え」
まとめ	4 水平社宣言を読み、込められた人々の思いや願いについて、感想をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 国際的地位が向上した日本で、身分制度が改められた中でも差別されてきた人々がいて、差別をなくすための強い思いをもって全国水平社をつくったことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「水平社宣言」を読み上げ、わからない言葉などは説明する。 	10	資料③「水平社宣言」

（参考：『同和問題学習展開案』（長野県教育委員会）より）

資料①

◇ 資料「学校での差別」

役場から入学通知が来ないので、小学校に入学することができず、明治 32 年になって初めて入学通知がありました。私ども仲間内の同級生は計 5 人となりました。

学校とはいろいろなことを教えていただく良いところと思って入学しましたが、私どもの期待はずれの差別が待って居りました。

座席は二人並び 3 列でしたが、私どもは西側の列の一番南の隅すみに二人ずつ並ならばせられ、一人分の座席は空席になっていました。・・・毎日学校へ行けば皆から差別され、いじめられるので、休み時間は校舎のかけに隠れ、授業の鈴が鳴るのを待って、早々はやばや座席にとびこみ、自分の座席へ着けば安堵あんどして勉強ができます。それが毎日続くのですから大変です。

(『長野県水平社のたたかい 高橋市次郎の手記』より)

(出典：『あけぼの 人間に光あれ』 6 訂版 長野県同和教育推進協議会)

資料②

◇ 資料 「山田少年の訴え」

山田少年はよくとおる声で、差別された体験をはなしました。そして、はなしている間にかれの胸は悲しみでいっぱいになったのでしょう。かれはもうはなしつづけることができなくなりました。かれのほおを^{なみだ}涙がとめどなく流れます。会場からもらい泣きの声がきこえ^{だんじょう}壇上にいた委員たちも涙をぬぐいました。山田少年はしばらく泣いていましたが、きっと顔をあげ会場の人びとに大声で呼びかけました。「いま、わたしたちは泣いている時ではありません。」はっとして人びとは少年の顔を見あげました。「おとなも子どももいっせいにたって、この悲しみの原因を打ち^{やぶ}破ろう。光^{かがや}輝く新しい世の中にしよう」と声のかぎりさけびました。たちまち会場は^{はげ}激しい、うしおのような^{はくしゅ}拍手につつまれました。

(出典：『部落史に学ぶ』 外川正明著 解放出版社)

資料③

◇ 資料「^{すいへいしゃせんげん}水平社宣言」(子ども用にやさしくしたもの)

全国に散らばっている仲間たちよ、団結せよ。

長い間いじめられてきた仲間たちよ、^{かいほうれい}解放令が出されてから
50年の間にいろいろな方法と、多くの人々によって運動が行
われてきたが、差別はなくなっていない。同情やあわれみで
は、差別はなくなるらないのだ。今、われわれの中から人間を
^{そんけい}尊敬することによって、自らを^{かいほう}解放しようと団結し、行動して
いくのは当然である。(中略)

われわれは、自分を低くみるような言葉やおくびょうな行動
によって、たくましく生きてきた^{そせん}祖先をはずかしめたり、人間
の^{そんげん}尊厳をおかしたりしてはならない。そうして、人の世の冷た
さがどんなに冷たいか、人間を大切にすることがどんなこと
であるかをよく知っているわれわれは、心から人生の熱と光を願
い求めるものである。

水平社はこのように生まれた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年 三月三日

全国水平社創立大会